

4/2/5

原子力エネルギーの原理が弁見されるから  
まだ五十年しか経たない。人類が（花の  
火を弁見し<sup>（利）</sup>て大氷河時代を乗り切ると  
驚の進化をなしとげ高度の文明を築いてきた  
一〇〇万年という年月に比べれば、五十年はほ  
んの一瞬にすぎない。花のエネルギーが  
の<sup>（利）</sup>強とそ<sup>（利）</sup>の<sup>（利）</sup>大規模使用による地球環境の悪化  
が憂慮されるいま、我々には原子力という新

本林 一ノ

火を正しく利用し、次の発展を促す。  
 原子力による原子力発電の普及は、世界の電力の1/6を供給  
 しているけれども、人間はこれまでに利用にあって  
 ニつの基本的な誤りを犯している。その一  
 つは、競争への非合理的な使用と、世界を破壊し  
 るほどの巨大な量の核兵器の保有にある。もう  
 一つは、原子力利用施設における無責任な操  
 作にある。深刻な事故がある。  
 原子力発電所の安全確保は、原子力産業の発展に  
 不可欠である。

(ト 三〇年間のチエリエンクの高レベルに機能施設の爆発事故)

は、ソ連の著名な原子力技術者 W. レガン  
博士がその遺書の中で、よきり述べているよ  
うに、~~不~~合理的な経済運営者の大団円  
あり、過去数十年にわたる人間の創意・能力  
自由を抑圧してきた旧体制の所産であつたと  
いえるのではなからうか。 超越ながら私は、  
ゴルバチョフ書記長のペレストロイカへの強  
い決意は、一九八六年のこの出来事によつて  
一層退転のものとなつたのではないかと、  
想像している。

4

|   |    |    |   |    |   |   |   |   |    |    |   |   |    |   |   |   |   |
|---|----|----|---|----|---|---|---|---|----|----|---|---|----|---|---|---|---|
| う | ま  | る。 | ジ | ヤ  | ー | 十 | リ | ス | ト  | は  | 大 | 衆 | の  | 解 | 道 | で | あ |
| い | る  | と、 | 私 | は  | 信 | じ | て | い | る。 |    |   |   |    |   |   |   |   |
| す | べ  | て  | は | 、  | 正 | し | い | 情 | 報  | の  | 提 | 供 | と  | そ | の | 評 | 価 |
| い | 事  | 故  | の | 体  | 験 | も | も | つ | が  | 故  | に | こ | そ、 | 原 | 子 | 力 | の |
| し | い  | 利  | 用 | も  | 有 | 限 | で | ま | る  | 大  | ま | な | 可  | 能 | 性 | と | 持 |
| 然 | い  | は  | な | い。 | 全 | 様 | は | ソ | 運  | は、 | 過 | 去 | の  | い | ま | わ | し |
| 性 | の  | 力  | が | 進  | ん | で | も | 取 | 高  | 水  | 準 | と | い  | わ | れ | る | 安 |
| い | て、 | い  | ま | 世  | 界 | で | も | 取 | 高  | 水  | 準 | と | い  | わ | れ | る | 安 |
| 大 | な  | 力  | と | る  | 限 | と | 思 | い | 知  | ら  | な | 日 | 本  | は | あ |   |   |
| 原 | 爆  | の  | 悲 | 惨  | な | 体 | 験 | に | よ  | っ  | て | 原 | 子  | 力 | の | も | ノ |
|   |    |    |   |    |   |   |   |   |    |    |   |   |    |   |   |   | 巨 |

日本原子力産業会議  
角

~~日本原子力産業会議~~

一九五九年十月には、日本が、ソ連へ  
 一となり、秘め、短い海軍期間の、五、一九  
 ソ連側は、平和擁護委員会が、それ、スポンザ  
 もりがある、日本側は、日本原子力産業会議が、  
 という、異い意見が、一致した、ことは、端を、示した  
 両国の、原子力利用の、状況を、  
 部長、グーバ、リフ、ヤ、と、全、じく、ジ、ヤ、タ、リス、ト、の、み、  
 ジ、パー、リ、ント、の、交流、は、プ、ラ、タ、科、学、技、術、  
 る、と、合、時、に、社、会、の、本、質、で、あ、る、日、ソ、両、国、の、  
 今、回、の、

日本原子力産業会議

によリ運かう日平ハ、の訪問が實現した。  
ちよオに日平泉の産業會議は、  
企業、研究所、製造地及び自治体が参加する。  
合民間組織であり、その目的は泉の力アップ  
ギ一を全国民の利益とする形に安全且、合理的  
に推進することにある。平和利用上り諸問題  
に、この情報提供、合議、提案などより  
平和利用推進の立場から一九八二年の  
産業會議に、核兵器の廃絶を求める声明を  
送付したこともある。

日本原子力産業會議

本書は、この交流の成果を、  
 ヤーサリム自身によつてと  
 もいふことが出来る。一般の人々  
 の手に入るものには、これより  
 更に多くある。その中には、  
 両国の間に生じた問題を、